

防 災 係

1 災害対策

(1) 訓練

ア 福生市総合防災訓練

日 時 平成 28 年 10 月 23 日(日) 災害対策本部訓練 午前 8 時 30 分～正午
各訓練会場 午前 9 時～正午

目 的 大規模な地震が発生したとの想定のもとで、市民の迅速な避難、関係機関との連携及び自主防災組織の行動力の向上を図った。また、メイン会場の第六小学校においては、児童、保護者及び教職員が参加した。

場 所 災害対策本部 福生市役所 (146 人)
第 1 訓練会場 福生第六小学校 (793 人)
第 2 訓練会場 福生第一小学校 (157 人)
第 3 訓練会場 福生第二小学校 (230 人)
第 4 訓練会場 福生第三小学校 (151 人)
第 5 訓練会場 福生第四小学校 (204 人)
第 6 訓練会場 福生第五小学校 (100 人)
第 7 訓練会場 福生第七小学校 (106 人)
第 8 訓練会場 福生第一中学校 (161 人)
第 9 訓練会場 福生第二中学校 (63 人)
第 10 訓練会場 福生第三中学校 (84 人)
福生市災害ボランティアセンター 福生市福祉センター (64 人)
(ふっさボランティア・市民活動センター)
明神下公園震災対策応急給水施設 (49 人)

※()内は各訓練会場参加者数

参加機関 福生市、福生市消防団、羽村市消防団、福生消防署、福生警察署、福生市交通安全推進委員会、自主防災組織、児童・保護者・教職員(学校関係者)、公立福生病院、福生市医師会、東京都柔道整復師会西多摩支部福生地区、東京都助産師会西多摩分会、福生消防署防災女性の会、福生アマチュア無線クラブ、福生 L P G 協会、福生市社会福祉協議会ふっさボランティア・市民活動センター、福生市建設防災協力会、民生委員・児童委員協議会、武陽ガス(株)、都立多摩工業高等学校、(株)NTT東日本ー南関東、東京消防庁災害時支援ボランティア、東京都水道局、航空自衛隊作戦システム運用隊、国土交通省京浜河川事務所

参加者数 2,308 人

イ 起震車体験訓練

目 的 人工地震の体験を通して、防災行動力の向上及び防災意識の高揚を図ることを目的とし、自主防災組織、学校、事業所等において福生消防署の協力により初期消火訓練、応急救護訓練等と併せて実施した。

運用回数 27 回(平日 12 回、土・日曜日 15 回)

運用先 自主防災組織 12 回、学校等 8 回、事業所等 7 回、燃料補給 3 回

体験者数 2,176 人

(2) 災害対策事業

ア 防災啓発活動

(ア) 自主防災リーダー講習会

講習日 平成 28 年 6 月 25 日(土) 午前 9 時 30 分～正午

場 所 福生市扶桑会館及び福生消防署
 受講者数 43人

(イ) ふっさ防災展

開催日 平成29年1月25日(水)・26日(木)・27日(金)

場 所 福生市プチギャラリー

内 容 「福生市の防災施策の紹介」 新たに締結した協定、災害時対応施設、一時滞在施設

「備蓄品の紹介」

家庭・職場向けの備蓄品、市備蓄品、災害備蓄用クラッカー及びショートブレッドの試食

「自助・共助の推進」

自主防災組織・避難所運営連絡会・福生市災害活動応援隊の紹介、福生市消防団団員募集、安全安心まちづくりだよりの紹介

「消防署コーナー」

救助資機材紹介、家具転倒防止器具、住宅用火災警報器、AED展示、消防少年団員募集、子ども用防火服試着コーナー等

※コーナーごとに、パネル・実物の展示及びパンフレットの配布を実施。また、入場者には消防署が用意した消しゴム、ペーパーラフト、トイレットペーパー等の様々な啓発物品と、試食用として市の備蓄食品を配布した。

見学者数 942人

(ウ) 自主防災組織による災害体験学習

月 日	自主防災組織名	学習場所	参加者数(人)
6.19	武蔵野地区	本所防災館	25
6.26	武蔵野台一丁目地区	横浜市民防災センター	26
7.7	熊川牛浜地区	栃木県防災館	54
7.15	福生団地地区	横浜市民防災センター	41
9.10	富士見台地区	東京臨海広域防災公園	28
9.17	本町第八第二地区	東京臨海広域防災公園	21
9.18	本町地区	東京消防庁第九方面消防救助機動部隊	22
10.8	南田園二丁目地区	神奈川県総合防災センター	25
10.29	志茂第一地区	池袋防災館	22
11.5	南田園三丁目地区	東京臨海広域防災公園	43
11.6	本町第六地区	立川防災館	15
11.13	牛浜第一地区	横浜市民防災センター	31
11.19	南地区	山梨県立防災安全センター	24
11.23	本町第八第一地区	東京臨海広域防災公園	35
11.26	牛浜第二地区	池袋防災館	24
11.27	志茂第二地区	本所防災館	28
12.10	永田地区	横浜市民防災センター	26

12.11	福栄地区	立川防災館	25
29.1.22	本町第一地区	立川防災館	18
1.28	内出地区	川越地区消防組合川島消防署	19
1.29	本町第七地区	埼玉西部消防組合狭山消防署	41
2.4	原ヶ谷戸地区	池袋防災館	24
2.5	玉川台地区	東京臨海広域防災公園	24
2.12	鍋ヶ谷戸第一地区	立川防災館	26
2.18	長沢地区	本所防災館	30
2.19	加美地区	東京臨海広域防災公園	26
2.25	加美平団地地区	立川防災館	30
2.26	本町中央地区	福生市福祉センター	18
3.12	福東地区	神奈川県総合防災センター	38
合 計			29 地区 809

(エ) 自主防災訓練の実施

自主防災組織名	参加者数 (人)	自主防災組織名	参加者数 (人)
福生熊川住宅地区	120	志茂第一地区	70
南地区	195	志茂第二地区	24
内出地区	151	本町第一地区	25
武蔵野地区	142	本町地区	35
福東地区	108	本町中央地区	28
鍋ヶ谷戸第一地区	284	本町第六地区	25
鍋ヶ谷戸第二地区	104	本町第七地区	110
玉川台地区	20	本町第八第一地区	104
富士見台地区	186	本町第八第二地区	145
福栄地区	30	武蔵野台一丁目地区	36
熊川牛浜地区	82	加美平団地地区	190
南田園一丁目地区	四地区合同 水防災訓練 ほか 248	永田地区	96
福生団地地区		長沢地区	136
南田園二丁目地区		加美地区	169
南田園三丁目地区		合 計 (32 地区)	3,436
牛浜第一地区	145		
牛浜第二地区	43		
原ヶ谷戸地区	385		

イ 各自主防災倉庫主な配備品

品 名	各数量	品 名	各数量
毛布	15 枚	投光機	1 台
ポリタンク	1 個	三脚 (投光機用)	1 台
応急救護セット	1 セット	発電機	1 台
骨折セット	1 セット	ガソリン携行缶	1 個
救急箱	1 セット	ロープ (15m)	1 巻
担架	4 台	三角バケツ	10 個
テント	1 張	のこぎり	1 本
ヘルメット	45 個	オイルパン	2 個
ハンドマイク	2 台	メガホン (トランジスター型 1 個)	5 個
移動式炊飯器	1 台	のぼり旗	2 本
防水シート	10 枚	リヤカー (折り畳み式 2 台)	3 台
スコップ	5 本	バール	1 本

コードリール	1 巻	ラジオ付ライト	3 個
強力ライト	3 個	チェンソー	1 台
ハンマー	3 本	災害救助工具セット	2 セット
つるはし	1 本	消火栓スタンドパイプセット	1 台
一輪車	1 台	軽可搬式消防ポンプ ※	1 台

※ 内出地区、武蔵野地区、福東地区、熊川牛浜地区、牛浜第一地区、原ヶ谷戸地区、志茂第二地区、本町第七地区、本町第八第一地区、本町第八第二地区、永田地区、長沢地区、加美地区 計 13 地区

ウ 市内備蓄倉庫主な応急対策資器材・物資備蓄品

品名	各数量	品名	各数量	品名	各数量
乾パン	6,240 食	哺乳ビン	570 本	投光器及び三脚	26 台
サバイバルフーズ	37,320 食	哺乳ビン用乳首	100 個	発電機	20 台
アルファ米	37,500 食	毛布	7,185 枚	ガソリン携行缶	22 台
3日間食料セット	2,187 食	簡易トイレ等	189 台	ハンドル充電式ラジオ	52 個
保存用乾燥おかゆ	6,000 食	トイレトペーパー	2,184 巻	安全キャンドル	60 個
クラッカー	7,280 食	生理用品	3,780 個	補給用ろうペレット	60 個
災害備蓄用パン	8,856 食	コンパクト肌着	1,600 枚	強力ライト	70 個
薄焼きビスケット	6,864 食	粉ミルク	540 缶	テント	26 張
レトルト白ご飯	270 食	立て看板	50 枚	担架	93 台
はんぶん米	600 食	脱脂綿	200 包	紙オムツ大人用	300 個
ショートブレッド	9,900 食	折りたたみ式寝具	63 台	紙オムツ幼児用	2,820 個
飲料水(500ml)	4,080 本	防水シート	783 枚	マスク	5,520 枚
応急医療セット	5セット	梯子	27 台	ゴザ	600 枚
スプーン	1,000 本	掛矢	36 本	鋼板	35 枚
おぼん	500 個	ジョレン	144 本	鋼板用支柱	33 本
おわん	3,000 個	コードリール	10 台	土嚢用止め杭	1,200 本
コップ	3,000 個	防水ライト	50 個	土嚢袋	1,560 枚
包帯	350 巻	ハンマー	9本	雨具	20 セット
カセットコンロ	3台	つるはし	100 本	鉄火鉢	36 台
災害用簡易ベッド	16 台	三角バケツ	384 個	固形燃料	138 個
メガホン	100 個	とび口	15 本	ポリタンク	20 個
ハンドマイク	10 台	斧	10 本	折畳式ウォータータンク	40 個
チェンソー	10 台	オイルパン(樹脂製)	12 台	オイルパン(鉄製)	12 台
平バール	5本	パイル	300 本	ウォーターパッカー	2台
折り込み鋸	10 本	木杭	19 本	スコップ	136 本

エ 各避難所倉庫主な配備品内訳

品名	各数量	品名	各数量
クラッカー・薄焼きビスケット	590 食	炊き出し釜	1 台
簡易トイレ	2 台	鉄火鉢	2 台
防水シート(ブルーシート)	12 枚	固形燃料	8 個
投光機及び三脚	1 台	ポリタンク	2 個
発電機	1 台	ハンドル充電式ラジオ	1 個
ガソリン携行缶	1 個	安全キャンドル	3 個
テント	1 張	補給用ろうペレット	3 個
担架	2 台	メガホン	5 個
マスク	480 枚	のぼり旗(避難所)	1 枚
セルフケアセット	2 セット	バルーン投光機	1 台
簡易更衣室用テント	1 台	カセットガスボンベ式発電機	1 台

オ 初期消火体制整備

街頭設置消火器及び格納箱の新旧取替えを実施した。

2 消防活動

(1) 常備消防（福生消防署）

福生市、羽村市、瑞穂町の2市1町を管轄区域として、本署と3出張所に総員205名の署員と消防ポンプ車5台、非常用ポンプ車2台、特殊化学車1台、化学車1台、はしご車1台、救急車4台、非常用救急車1台、指揮隊車1台、査察広報車4台及び人員輸送車1台からなる陣容で消防活動、予防行政の執行等に従事している。

出場状況（管轄区域） (単位：件)

火災	非火災	水災	救急	救助	危険排除	緊急確認	合計	前年度合計
42	33	15	7,384	287	93	67	7,921	10,277

(2) 非常備消防（福生市消防団）

市内にある5個分団からなる消防団組織（団員173人。消防ポンプ車5台及び指揮車1台を保有）により、消防活動を実施している。

ア 消防団組織

団 長 — 副団長 (1人) (4人)	第一分団長 — 副分団長 — 部 長 — 班 長 — 団 員 (1人) (2人) (3人) (8人) (12人)
	第二分団長 — 副分団長 — 部 長 — 班 長 — 団 員 (1人) (2人) (3人) (9人) (20人)
	第三分団長 — 副分団長 — 部 長 — 班 長 — 団 員 (1人) (2人) (3人) (9人) (16人)
	第四分団長 — 副分団長 — 部 長 — 班 長 — 団 員 (1人) (2人) (3人) (9人) (20人)
	第五分団長 — 副分団長 — 部 長 — 班 長 — 団 員 (1人) (2人) (3人) (9人) (20人)
本部付団員 (6人)	

イ 配置車両

分団名	車両ナンバー	車 両 の 種 類	車両購入年月日
団本部	八王子 800 さ6574	普通自動車「ワゴンタイプ」(日産)	平成15年9月
第一分団	八王子 830 さ2301	普通消防ポンプ自動車(いすゞ)	平成26年1月
第二分団	八王子 830 さ2302	普通消防ポンプ自動車(いすゞ)	平成25年1月
第三分団	八王子 830 さ2303	普通消防ポンプ自動車(いすゞ)	平成27年2月
第四分団	八王子 830 さ2304	普通消防ポンプ自動車(いすゞ)	平成24年2月
第五分団	八王子 830 さ2305	普通消防ポンプ自動車(いすゞ)	平成27年2月

ウ 年齢別団員数

(単位：人)

年齢 団員数	18～20歳	21～25歳	26～30歳	31～35歳	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51歳以上
173	1	29	46	37	33	20	6	1

エ 在職年数別団員数

在職年数 団員数	5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上 20年未満	20年以上 25年未満	25年以上 30年未満	30年以上
173	46	62	25	21	15	3	1

オ 退団・入団員数

(単位：人)

区 分	平成28年4月1日現在	退団者	入団者	階級異動	平成29年4月1日現在
本 部	5				5
本部付団員	6				6
第 一 分 団	34	11	3		26
第 二 分 団	35	1	1		35
第 三 分 団	35	4			31
第 四 分 団	35	1	1		35
第 五 分 団	35				35
合 計	185	17	5		173

カ 消防団員火災出動状況

火災発生件数(件)	出 動 回 数(件)	延べ出動団員数(人)	平均出動団員数(人)
33	24	2,044	85.2

キ 消防団出動状況 (風水害等)

延べ出動団員数(人)	出 動 回 数(回)
60	1

ク 消防団警戒等特別出動状況

警 戒 名	延べ出動団員数(人)	出動回数(回)
祭 礼 警 戒	134	2
七 夕 警 戒	441	4
歳 末 警 戒	274	5
そ の 他 の 警 戒	190	9
合 計	1,039	20
前 年 度 合 計	1,042	18

ケ 消防団各種訓練 (消防)

訓 練 名	延べ出動団員数(人)	出動回数(回)
火 災 防 御 訓 練	527	7
ポ ン プ 操 法 訓 練	6,324	121
機 関 訓 練	1,436	58
規 律 ・ 礼 式 訓 練	338	16
教 育 訓 練	833	59
住 民 指 導	328	20
合 計	9,786	281
前 年 度 合 計	9,844	258

コ 消防団各種訓練 (災害)

訓 練 名	延べ出動団員数(人)	出動回数(回)
教 育 訓 練	0	0
住 民 指 導	131	1
合 計	131	1
前 年 度 合 計	135	1

サ ポンプ操法審査会（第 64 回）

審査会は、消防ポンプ操法の基本を身につけ、指揮者と団員との連携を訓練し、もって団員の士気向上を図り、火災防御活動の迅速かつ確実な実施及び火災による生命・財産の損害の防止を目的に実施している。なお、平成 28 年度はホースカーによるホース延長操法を実施した。

平成 28 年度	ホースカーによるホース延長操法		
	優勝	第 2 位	第 3 位
総合成績	第五分団	第三分団	第四分団
チーム成績	第三分団 B	第五分団 B	第四分団 B

前 年 度	手びろめによるホース延長操法		
	優勝	第 2 位	第 3 位
総合成績	第三分団	第二分団	第五分団
チーム成績	第三分団 B	第五分団 A	第四分団 B

シ 第 25 回全国消防操法大会出場

平成 28 年 10 月 14 日、長野県南長野運動公園（長野オリンピックスタジアム）で開催された全国消防操法大会に、東京都代表として福生市消防団第三分団が出場し、ポンプ車の部において優良賞を受賞した。

(3) 火災の状況

ア 月別火災発生件数

区分 月	建 物			車両 (件)	その他 (件)	合計 (件)	※ 焼失面積 (㎡)	非火災 (件)	消防団 出動回数 (回)
	全焼 (件)	半焼※ (件)	ぼや (件)						
4			1	1	1	3		0	1
5			1	1		2		0	1
6						0		6	5
7				1		1		0	0
8						0		1	1
9			1			1		2	2
10	1		1			2	50(7)	1	3
11		1				1	5	1	2
12		1	1			2	25	1	2
29 年 1		1	1		1	3	(1)	1	3
2	1					1	122(5)	0	1
3						0		4	3
合 計	2	3	6	3	2	16	202 (13)	17	24
前年度 合 計	1	1	7	2	4	15	340(73)	11	14

※半焼は、部分焼を含む。

※焼失面積は焼失床面積、() 内は天井、壁等の焼失表面積

イ 原因別火災件数

(単位：件)

原 因		放 火 (疑い含む。)	たばこ	ストーブ	ガスコンロ等	火遊び	その他	合計
件 数	平成 28 年度	3	1	5	0	0	7	16
	前 年 度	10	0	1	2	1	1	15

(4) 消防水利施設

ア 水利

(単位：基、箇所)

消火栓		合計	防火水槽			貯水槽		合計	プール
150 mm未満	150 mm以上		20 m ³ 未満	20 m ³ 以上 40 m ³ 未満	40 m ³ 以上 60 m ³ 未満	60 m ³ 以上 100 m ³ 未満	100 m ³ 以上		
466	157	623	29 (0)	5 (0)	96 (89)	18 (18)	21 (21)	169 (128)	17

() は、耐震性防火水槽・貯水槽で内数

イ 消火栓新設箇所

(単位：mm)

番号	設置箇所	口径	備考
1	牛浜 145 番地先	φ 100×φ 75	地下式単口
2	南田園二丁目 16 番地先	φ 100×φ 75	地下式単口
合計	2 箇所		

※ 2 は UR 都市機構による設置の私設消火栓

ウ 消火栓移設箇所

(単位：mm)

番号	設置箇所	新口径	旧口径	備考
1	大字福生 689 番地先	φ 300×φ 75	φ 300×φ 75	地下式単口→地下式単口
2	加美平一丁目 20 番地先	φ 100×φ 75	φ 100×φ 75	地下式単口→地下式単口
3	加美平一丁目 22 番地先	φ 200×φ 75	φ 200×φ 75	地下式単口→地下式単口
4	加美平一丁目 17 番地先	φ 100×φ 75	φ 100×φ 75	地下式単口→地下式単口
5	武蔵野台二丁目 28 番地先	φ 200×φ 75	φ 200×φ 75	地下式単口→地下式単口
6	武蔵野台二丁目 34 番地先	φ 75×φ 75	φ 75×φ 75	地下式単口→地下式単口
7	志茂 43 番地先	φ 300×φ 75	φ 300×φ 75	地下式単口→地下式単口
8	大字熊川 1379 番地先	φ 100×φ 75	φ 100×φ 75	地下式単口→地下式単口
9	大字熊川 1315 番地先	φ 100×φ 75	φ 100×φ 75	地下式単口→地下式単口
10	大字熊川 1354 番地先	φ 250×φ 75	φ 250×φ 75	地下式単口→地下式単口
11	大字熊川 1414 番地先	φ 250×φ 75	φ 250×φ 75	地下式単口→地下式単口
12	大字熊川 1433 番地先	φ 200×φ 75	φ 200×φ 75	地下式単口→地下式単口
13	大字熊川 1416 番地先	φ 100×φ 75	φ 100×φ 75	地下式単口→地下式単口
14	大字熊川 1411 番地先	φ 200×φ 75	φ 200×φ 75	地下式単口→地下式単口
15	大字熊川 1664 番地先	φ 200×φ 75	φ 200×φ 75	地下式単口→地下式単口
16	大字熊川 1572 番地先	φ 200×φ 75	φ 200×φ 75	地下式単口→地下式単口
17	大字熊川 1671 番地先	φ 100×φ 75	φ 100×φ 75	地下式単口→地下式単口
合計	17 箇所			

エ 消火栓補修箇所

(単位：mm)

番号	設置箇所	口径	備考
1	大字福生 978 番地先	φ 100×φ 75	地下式単口
2	志茂 228 番地先	φ 100×φ 75	地下式単口
3	大字熊川 1346 番地先	φ 300×φ 75	地下式双口
4	大字熊川 716 番地先	φ 150×φ 75	地下式単口
合計	4 箇所		